

先輩に続け



目標に向かって 一緒に頑張っていける 良き仲間を作ってください

三井記念病院消化器内科後期レジデント 黒川 憲 (くろかわ けん)

私は平成26年3月に徳島大学医学部を卒業し、現在は消化器内科医として後期臨床研修を行っております。本稿では主に徳島大学在学中に行ってきたことについてご紹介いたします。

これまでの経緯

私は平成17年4月に徳島大学医学部に入學しました。入学直後に1年次の生物学の講義を担当されていた六反一仁教授の研究室に見学に行く機会があり、研究内容を紹介していただいたり実験室を案内していただいたり大変好奇心が刺激されたのを覚えています。そして研究室に遊びに行き、実験の手伝いなどをさせていただきました。3年

次の研究室配属でも同研究室を選択し、半年間新規 non-cooking RNA の機能解析を行い、最後に研究発表を行いました。実験は予想通りの結果が出ないことが多いですが、予想外の結果が出た際の軌道修正や、試行錯誤の結果上手くいった時の感動、そして一つのプロジェクトが組み上がったいく過程は大変興味深く、研究室配属が終わる頃には本格的に研究してみたいと思うようになりました。

VISA の取得まで出発直前まで右往左往したのも懐かしく思えます。留学中は Milewicz 教授の教室(内科、Medical Genetics)に配属され、解離性大動脈瘤と Vasa vasorum (血管の栄養血管)の関連について基礎研究を行いました。Milewicz 教授はテキサス大学の MD / PhD プログラムの出身であり、現在は本プログラムの責任者であるため、実際に活躍している多くの現役の MD / PhD プログラムの学生と交流することが出来ました。また、週末に NASA や Galveston などを観光したのも良い思い出になっています。

こうした経験が契機となり、4年次終了後に MD-PhD コースを選択し、平成21年4月から大学院医学教育部へ進学しました。大学院時代は旧・ストレス制御医学分野(現・病態生理学分野)にて六反一仁教授のもと主に大腸癌と遺伝子の選択的スプライシングの関連について3年間基礎研究を行いました。真核生物ではタンパク質をコードする領域が DNA 上に分断されて存在し、DNA から転写された pre-mRNA から非コード領域(イントロン)を除去してコード領域(エクソン)を連結させる反応がスプライシングです。さらにヒトでは90%以上の遺伝子で状況に応じて連結するエクソンを選択して一つの遺伝子から複数のタンパク質を生成しており、遺伝子の多様性を生み出す重要なメカニズムです。選択的スプライシングは、組織・細胞・発生段階特異的に厳密に制御されていますが、ヒト大腸癌ではこの選択的スプライシングの調節因子の異常により、HIPK2 という癌抑制遺伝子が不活化していることを発見し、学位論文といたしました。

何かに挑戦した結果たとえ失敗したとしても許容されるのが学生時代の特権であり、そうした時期にできるだけ多様な経験をおくのが良いのではないのでしょうか。また、大学が主催するプログラムもどんどん充実しており、そうしたプログラムを活用するのも効率が良いと思います。そしてやはり一緒に頑張る仲間が大事だと思います。私もこれまで研究室配属、ヒューストン留学、MD-PhD コース、医師国家試験、研修医時代、そして現在と、幸いにもいずれの時期にも良き仲間恵まれ、一緒に頑張れたからこそ乗り越えて来られたのだと思います。

在学生へのアドバイス

器内科の後期臨床研修医として肝胆脾や消化管の悪性腫瘍の診断と治療を中心に、炎症性腸疾患や肝炎など幅広く消化器内科疾患の診療に携わっております。

徳大生 大活躍!

ふるさと鳴門の魅力在全国に発信 「鳴門うずしお大使」として活躍

今年の鳴門市うずしお観光協会公募の色の「鳴門うずしお大使」には、2名とも徳大生が選ばれました。

松木さんは、子供の頃に少し鳴門に住んでいたことがあります。

「母が、大鳴門橋開通記念の『鳴門ピア・ワールドフェスティバル』で広報活動をし、そのことが良い思い出と経験になったからと、私にも勧められました」

西川さんは、「学校の活動で地域の活性化や町おこしの計画を立てたことがあったので、実際に活動する機会がほしい」と思っていました。そのことを母に話すと、母が新聞の公募を見て教えてくれました」

二人は学部も学年も違うため、選考会で初めて出会いましたが、すぐ意気投合。落ち着いた雰囲気の中、松木さんと笑顔が自慢の活発な西川さんは、絶妙な名コンビです。イベントは月2回ほど有り、テレビやラジオの収録をはじめ、撮影会やパーキングエリアでのパンフレット

配布など大忙し。その合間にも鳴門の色々なところに出かけて勉強しています。

松木さんのお勧めは、大麻比古神社や妙見山。西川さんはちよっとレアな岡崎渡船。でも全国乗りたい渡船では上位にランクされています。

松木さんは、実家が歯科医院。「父の姿を見て歯科医を目指しています。治療には技術だけでなく、患者さんとのコミュニケーションも大事です。大使の活動を通して多くの人とふれあうことが勉強になっています」

西川さんは、「イベントでは多くの人の温かさを感じいつもほっこりして活動させてもらっています」

一度ポートレースの見学もしてみたいという2人。任期中には、「第九」のアジア初演100周年記念という大きな記念イベントもあります。徳島・鳴門の魅力を日本・世界へ発信する2人の大活躍が期待されています。

歯学部歯学科4年 松木 里奈 (まつきりな)



総合科学部人間文化学科2年 西川 奈那子 (にしかわ ななこ)

